

泥亀新田の説明板設置

金沢区役所に隣接する泥亀公園に、3月30日「金沢発展の礎 泥亀新田」の説明板が設置されました。区役所のあたり一帯は、江戸時代はじめ頃まで「内川入江」と呼ばれる内海でしたが、江戸から移住してきた長島祐伯の手で新田開発が行われ、幾度かの困難に遭いながら長島家が約180年の歳月をかけて完成、初代長島祐伯の号「泥亀」を付して泥亀新田と名付けられました。

泥亀公園には説明板のほかに、江戸時代の初め頃にあったとされる「金沢八名木」と呼ばれる八種の樹木のうち、六種が植樹されております。八名木は青葉の楓、西湖梅、黒梅、桜梅、文殊桜、普賢象桜、蛇柏槇、雀が浦の一本松といわれますが、一本松については君ヶ崎の一本松などの諸説があります。近くにお越しの場合は、是非お立ち寄りください。

